

令和5年度 第5回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会 会議録	
日時	令和6年3月27日(水) 13:30～
開催方法	横浜市庁舎18階会議室
出席者	(委員) 小宮輝之委員、佐渡友陽一委員、関清美委員、藤崎晴彦委員、間曾さちこ委員
開催形態	非公開
<p><b>1 令和5年度第4回会議録案</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・了承</li> </ul> <p><b>2 令和5年度下半期モニタリング報告</b></p> <p><b>委員からの主な意見と質問</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化庁主催のファンレイジング説明会を受けて、協会はどのようなことを今後行う予定か。 →市としても、説明会を受けてどう活かしていくのかが大切であり、説明会で学んだ内容を動物園の運営にどのように反映していくのか、気にしており問いかけています。指定管理者も準認定ファンレイザーを受けたことで、しっかりとファンレイジングをやっていかなければいけないという意識が上がっていつていると感じています。(市)</li> <li>・今までの動物園友の会は、寄附をいただくことを目的とした組織ではなかったが、今後はヨーロッパのように寄附組織と位置づけでいくのか。 (令和6年度から任意団体である動物園友の会を解散し、指定管理者の自主事業として事業継承) →友の会はもともとは会員間の交流などを目的としており、その点において大きな貢献をしていただいていると思っている。指定管理者の自主事業に変わったからといっていきなり大きく変えていくのではなく、少しずつ中長期的な視点で考えていきたい。(市)</li> <li>・その認識でよろしいと思います。日本における友の会は気持ちにおいて支援してくれる団体で、ファンレイジングにおける基盤は気持ち、いわゆる「共感」なので、そこを大切にしながら次のステップに繋げてほしい。</li> <li>・ステークホルダーピラミッドを整理して、どういう道筋を示していくかという戦略が問われる。</li> <li>・改修工事を実施するにあたって、飼育職員と施設職員の連携が大切になる。動物の安全に関わる部分なので引き続き、連携を行っていくことを大切にしてほしい。</li> <li>・ズーラシアでオットセイの施設改修のためにクラウドファンディングを実施したが、思ったより寄附が集まらなく苦労したかと思うが、事前のプラン作りや、寄附対象者のリスト化をするなど、事前準備をすることなどを考えていくことが必要ではないか？ →野毛山動物園や金沢動物園でのクラウドファンディングの実績を参考に、ズーラシアだったらもつと集まると思ったが、実際は思ったより伸びずに苦労したと思わる。(市)</li> <li>・キャンペーン型のファンレイジングにおいて期間内に目標金額まで達さなかった場合のことを考えていくことも必要。例えば、必要な金額を提示して、年度を超えてでもその金額が集まってくる</li> </ul>	

のを待って、集まったら実施するような方法も検討したほうがいい。

- ・放鳥したミゾゴイが12月に栄区で見つかった経緯は？具体的には渡りをしなかったということか。
- 野鳥の会などに放鳥することを情報共有していたので、バードウォッチングしている方がミゾゴイについている脚環を見て電話をくれた。渡りはしなかったと判断している。改善策として、次年度は（金沢動物園への）移動とリハビリを前倒しにして、国内の環境に慣れ上手く渡れるよう改善していく予定でいる。（市）

### 3 令和6年度事業計画について

（指定管理者参加）

- ・登録博物館への登録を目指すとして書いてあるがこれのメリットはなにか。
- メリットとしては、動物園が博物館であることを公的に証明すること。また、現状、標本等資料の管理を博物館にふさわしい状況に改善していくなど、登録博物館になることで、博物館としてふさわしい動物園とするために登録を目指していきたいと思う。（市）
- ・登録博物館を目指すのであれば、博物館として恥ずかしくないものを作っていってほしい。
- 
- ・準認定ファンドレイザーを取得させる目標は何か、さらに上位の認定ファンドレイザーの取得も目指してほしい。
- 寄附者、寄附のメニューが少ししか増えていない現状があるので、そこを増やしていく、また現在の寄附者からより大口の寄附をいただけるようにやっていきたい。（協会）
- 
- ・来園者数全体だけで目標をおくのではなく、来園者の居住地（市内、県内市外、県外）、年齢構成など細分化してデータを収集し目標をおいた方が、その後の戦略をたてやすくなるので、データ収集方法も含めて検討した方がいい。